

## 拒絶理由通知書

特許出願の番号 特願2000-225686  
起案日 平成15年 6月 6日  
特許庁審査官 今井 淳一 9055 4R00  
特許出願人代理人 大西 健治 様  
適用条文 第29条第2項



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

## 理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記1～4の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

## 記

## 【請求項1、2に対して】

1、特開平10-270426号公報

(第7～31段落: ガスを供給する上部電極の内部に、プラズマを検知する検知手段を設けたことに相当する点)

## 【請求項3、4に対して】

2、特開平7-78769号公報

(第6～24段落: ガス導入板とクーリングプレートの上に設けられた圧力を検知する圧力検知手段から成ることに相当する点)

## 【請求項5、6、7に対して】

上記引用例1、2及び

3、特開平11-297672号公報

(第14～39段落: ガス導入板とクーリングプレートの上に設けられた圧力を検知する第1の圧力検知手段から成り、ウエハーを載置するエッチング処理室内に第2の圧力検知手段が設けられていることに相当する点)

4、特開平10-112400号公報

(第10～42段落: 第1及び第2の圧力検知手段により検知された圧力の差を検出する手段に相当する点)

S i S C

提出期限

平成15年6月11日

備考

引用例2に記載された装置では、圧力センサの具体的構成について言及されていないが、圧力を監視する際に圧力を測定する手段を設けることは自明の事項であり、引用例3に記載されたようにシャワープレートの供給ガス上流側と下流側に圧力計を設けて、シャワープレート自身のコンダクタンスを測定することが知られていることを踏まえると、引用例4に記載されたようにプラズマエッチング装置内の複数箇所圧力センサを設けるに際して、一方をガス供給室内に設けることは当業者が適宜なし得た事項であると認められる。

-----  
先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野     IPC第7版   H01L21/3065

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。